

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

令和元年度 前期号 (通号 第 34 号)

〒 101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4 階
TEL : 03-3251-4081
FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<http://www.toho-gakuin.org>

目次

理事長ご挨拶	1 頁
新理事ご紹介	2・3 頁
芳名録	4 頁
講師・研究会員・研究員の声	5〜7 頁
行事報告・今後の行事	8・9 頁
新刊紹介	2・3・4・9 頁
事務局通信	10 頁



中村先生の世界平和への願い (そのⅡ)

―理事長ご挨拶にかえて―

前田専學理事長



最近の国際情勢を見てみると、かつて鎌倉高徳院(大仏)に建立されたJ・R・ジャヤワルデネ元スリランカ大統領顕彰碑誌に、中村先生が東方学院院长として刻み残された文章が思い起こされます。

「……ジャヤワルデネ前スリランカ大統領は、この講和会議の演説に表記碑文のブツダの言葉を引用されました。そのパーリ語原文に即した經典の完訳は次の通りであります。

実にこの世において、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である。

(『ダンマパダ』5)

ジャヤワルデネ前スリランカ大統領は、講和会議出席各国代表に向かつて日本に対する寛容と愛情を説き、日本に対してスリランカ国(当

時セイロン)は賠償請求を放棄することを宣言されました。

さらに「アジアの将来にとって、完全に独立した自由な日本が必要である」と強調して一部の国々の主張した日本分割案に真っ向から反対して、これを退けられたのであります。

今から40年前のことですが、当時、日本国民はこの演説に大いに励まされ勇気づけられ、今日の平和と繁栄に連なる戦後復興の第一歩を踏み出したのです。

いま、除幕式の行われるこの石碑は、21世紀の日本を創り担う若い世代に贈る慈悲と共生の理想を示す碑であります。この原点から新しい平和な世界が生まれ出ることを確信します。

1991年(平成3年)4月28日



戦後74年、その間にさまざまな紛争が世界の各地で起こっているとは言え、今日ほどの危機感を感じさせることはなかったように思われます。中村先生が望まれた慈悲と共生の理想の原点から新しい平和な世界の実現を切に願っています。

新理事ご紹介

中村元先生のインド文化への篤い思い

比良竜虎理事



2019年6月「公益財団法人中村元東方研究所」理事を拝命いたしました比良竜虎と申します。

理事という責任が重く、かつ名誉ある役職にご推薦いただきましたところ、身を引き締める思いでお引き受けすることを決意いたしました。関係各位のご支援とご協力を賜りながら、誠心誠意職務を全うする所存でございます。

当研究所はインド哲学・仏教学者として国際的に尊敬される中村元先生により創立されました。私は中村先生には1977年頃初めてお目にかかり、以来晩年にいたるまで、お付き合いいただきましたことは身に余る光栄でございます。「君はインド人だから、日本の子どもたちにヴェーダやインド式思考方法が育つよう尽力するように」とおっしゃったので、このお約束を実行した結果、大勢の子どもたちがインドの聖典を暗誦できるまでになりました。さて、私は幸運にもインド人として初めて

当研究所理事の末席を汚すこととなりました。これをご縁として中村先生が遺された理念・思想・思考という精神的遺産が永遠に輝き続けるよう、インドの仏教学者との交流をも深めながら当研究所の発展に微力ながらも尽力したいと考えております。

一方、今日の日本の伝統文化の基盤として、聖徳太子の「十七条の憲法」の存在は極めて大きく、その第二条に、三宝、即ち「仏・法・僧」を敬うべし、との教えがあります。この素晴らしい教えが日本の文化と伝統として定着し、今日に至るまで受け継がれて参りましたことは私の最も欣快とするところでございます。

中村先生は「インド文化の影響なくして、今日の日本文化の存在はあり得ない。」とおっしゃっています。日印間の同胞精神が外交や経済関係の枠組みを超えて、存在感を示している所以であります。

当研究所が中村先生の崇高なご遺志を受け継ぎながら益々発展することを願ってやみません。

末筆ながら関係各位の更なるご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

ひら りゅうこ

昭和 23 年 インド生まれ、昭和 51 年 日本国帰化。HMI ホテルグループ 代表取締役社長。在日インド商工協会 会長、日印協会 理事をはじめ、複数の経済・文化団体 理事、サイヒラインド財団 理事長。昭和 53 年より多数のインド哲学の著書を翻訳・出版。平成 22 年 (2010) インド国大統領より PBS 勲章を受章。

新刊案内

前田専學編 『原始仏典Ⅲ 増支部経典 第六巻』



『パーリ語三蔵』の「経蔵」に収められている原始仏教経典、『長部経典』『中部経典』『相应部経典』につづく『増支部経典 (アングッタラ・ニカーヤ)』の現代語訳。「友愛」「地震」「完全な目覚め」「超能力」など、第八集 (全 11 章)、第九集 (全 10 章) を収録。

単行本：516 頁
出版社：春秋社 言語：日本語
ISBN-10: 439311356X
ISBN-13: 978-4393113561
発売日：平成 31 年 4 月 18 日
定価：本体 8,500 円 (税別)

理事就任ご挨拶

平岡宏 一理事



この度、中村元東方研究所理事を拝命いたしましたため、この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

多くの碩学が在任され、数々の研究成果を世に出されている最高峰の研究機関におきまして、このような大役を仰せつかりましたこと、誠に身が引き締まる思いでございます。

私事ではございますが、私はこれまでに培って参りましたチベット密教の研究成果を少しでも多くの方たちと共有したいという思いから、小規模ながらも勉強会を持たせていただいておりますが、「真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村先生の信念を私自身日々感じさせられております。学びたい者が自由に学べるその在り方は、現代における「綜藝種智院」を彷彿とさせるものがあり、そのご意志を存続するために、関係各位のひとかたならぬご尽力があったことをご推察申し上げます。

中村元東方研究所が創立50周年の節目を迎えられます大切な時期、前田専學理事長から理事就任のご依頼をいただきました折りに、小生にとりまして身に余る重責と感

じましたが、中村先生の意志をご継承されている前田専學理事長のお志に深く感銘し、併せて皆様のご厚情により理事就任に至りました。かつて、弊校の校祖平岡岩峯が中村元先生にご指導いただきましたご恩に少しでも報いるため、また、中村元東方研究所及び東方学院益々のご発展の一助になりますよう尽力する所存でございますので、どうぞ、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

※「綜藝種智院」

天長5（828）年12月15日空海が京都九条に創立した普通教育機関。綜藝とは顕教、密教、儒教をいい、種智とは菩提心をいう。身分上の制限により、当時の大学、国学に学ぶことのできない庶民のために開いた学問所。

（編者注）



ひらおか こういち

昭和36年6月21日生まれ 早稲田大学第一文学部卒
昭和63年5月インドギュメ密教学問寺入学
外国人で初めて正式なCERTIFICATEを受ける
高野山大学大学院博士課程単位取得退学
学校法人清風学園専務理事・校長
種智院大学客員教授

新 刊 案 内

渡邊寶陽著 『法華経のはなし』



日蓮教学、法華経思想研究の泰斗が身近な言葉で解く『法華経』入門の最適書。多くの僧や歌人の詠んだ和歌の背後にある『法華経』信仰に縁を結んだ人生観などを味わいながら、各品の成り立ちや歴史、法華経文化について言及。高僧・歌人の詠んだ和歌の背後にある、信仰に縁を結んだ人生観を味わい、『法華経』の成り立ちや、日本文化との関わりについても言及。「諸法実相」「悉有仏性」「一念三千」「真空妙有」などの教義用語も身近な言葉で説き明かす。

単行本：228頁
出版社：佼成出版社 言語：日本語
ISBN-10: 4333028108
ISBN-13: 978-4333028108
発売日：令和元年6月17日
定価：本体1,600円（税別）

令和元年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和元年9月20日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師平間寺 小林和子 在家仏教こころの研究所 宗教学人西来寺 史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会(日野紹運) 末廣照純 鈴木一馨 浅草寺 高崎宏子 高橋堯英 高松孝行 中央学術研究所 千綿道人 津田眞一 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 日本ヨーガ禅道院 念法眞教金剛寺(桶屋良祐) 羽矢辰夫 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺(奈良修一) 前田専學 前田式子 三木純子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 薬王院 山崎桂子 渡邊信之 渡邊隆生

賛助会員

阿部敦子 栗野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 入江宥道 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田真水 岡田行弘 荻山貴美子 オリオン産業株式会社 奥住毅 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 倉田治夫 黒田大雲 小林正和 小林守 小峰啓誉 小峰立丸 小山典勇 金剛院 仏教文化研究所 公益社団法人在家仏教協会 斎藤明 斉之平伸一 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 佐藤憲晃 下田勇人 末木文美士 菅沼莊二郎 須佐知行 関戸堯海 千賀正榮 高橋審也 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 株式会社展勝地 公益財団法人 東洋哲学研究所 一般財団法人徳育経営研究所 徳田勝洋 戸田忠 鳥山玲 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 長谷川恵子 畠中光享 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅里 濱川量子 比良佳代子 平井恭子 福重利夫 福留順子 藤井教公 藤井知興 藤田宏達 法雲寺(水谷浩志) 寶幢院(原隆政) 保坂俊司 堀江順司 松浦和也 的場裕子 水谷俊一 宗教学人密蔵院(山口正純) 宮元啓一 彌勒密寺(上村正剛) 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院(山本文溪) 由木義文 好井瑞皖

ご寄付

小塚一隆 小山典勇 清水谷善圭 野津一成 保坂俊司 松久保秀胤 御園生妙子 三宅善夫

新 刊 案 内

西村実則著 『〈新版〉 荻原雲来と渡辺海旭 —ドイツ・インド学と近代日本—』



明治時代、在家から僧となり、サンスクリット学、仏教学の世界的権威となった人がいる。荻原雲来と渡辺海旭である。この二人はドイツに留学して起居を共にし、ドイツの師が菩薩と呼んだほど刻苦精励した。本書は当時ドイツに留学した人びとと、この二人のドイツ体験を追ったものである。

単行本：388 頁
 出版社：大法輪閣 言語：日本語
 ISBN-10：4804682155
 ISBN-13：978-4804682150
 発売日：平成 31 年 3 月 26 日
 定価：本体 2,800 円 (税別)

東方学院 講師ご紹介

平木光二 講師

(関西校)



奥田清明先生(後に四天王寺管長)からパーリ語の手ほどきを受け、専攻がビルマ語だったこともあり、ミャンマー仏教を研究する道を選びました。

ミャンマーの仏教は、テララヴァーダ(上座仏教)である。上座仏教とは、一言でいえばパーリ仏典を信仰の基礎におく仏教(の一派)ということができる。その經典数は膨大な量にのぼるが、ミャンマーの人々が心の拠り所、行動の指針と重んじる經典が、慈しみ、非暴力を説く「メッタ・スッタ」である。1988年、大規模な民主化運動がおこり、一般市民に混じり僧尼も反政府デモに加わったが、そのとき非暴力を訴え僧尼たちが唱和した經典がこの経

である。

大学院修了後、科研や前田惠學先生のパーリ学仏教文化学会から助成を受けて、サンガ裁判所や僧院・尼僧院を訪れ聞き取り調査をおこなった。サンガ裁判所とは、説法内容が仏説とは認め難く、異端説の疑いがあると提訴された僧(とその在家支援者)を審査する宗教法廷のことである。また僧院ではパーリ語文法の授業風景なども実見した。ミャンマー一国という限られたフィールドではあったが、仏典研究だけでは分らない生きた仏教の存在形態を学ぶことができたのは大きい成果であった。本講座の研究会員はみな勉強熱心で、名古屋から通い続けて今年で3年目になる会員もおられる。学ぶことは楽しいを一同実感しながら勉強していただきます。私たちといっしょに、あなたもパーリ語と仏の教え(ブツダ・サーサナ)を勉強してみませんか。

ひらき こうじ

1951年、山口県生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程満期退学。現在、近畿大学講師。著書に『宗教と実践』(共著、ナカニシヤ出版)、訳書に『増支部經典 第5巻』(共訳、春秋社)など。

木村紫 講師

(東京本校)



不思議な道のり

何も知らずに受講した「仏教論理学入門」講座は、中村元先生が訳されたダ

ルマキールテイの『論理学小論』(『法華文化研究』第7号)がテキストでした。林慶仁先生の「原典で読む方が面白い」という熱いお言葉に、その秋から辞書と文法書首っ引きで格闘しては、先生に授業後十数分みて頂いたのが私の原点です。翌年の夏休みから受講生有志で勉強会を始め、教室も拝借して、盛り上がりました。ひたすら考えた果てに、パツと閃く時の心地よさが原動力でしたが、基礎のなさを痛感し、連名で提出した『俱舎論』の講座新設のお願いに前田專學先生がご尽力下さり、三友健容先生の「アビダルマ研究」講座が始まりました。そして、三友先生から4年後定年退職される

までにとり時間制限つきで博士論文執筆を勧めて頂き、林先生に背中を押され、突然大学院生になりました。心の赴くままに読んできましたから、素養も蓄積もなく、右往左往した結果、私の把握が研究テーマになり、奇跡的に論文を提出できましたが、課題・宿題も沢山残りました。若さも、能力も、持続力もなく、ボーっと生きてきましたが、東方学院に至るまでの年月があつてこそ、仏教と深く向き合えるようになったのだとも思っています。今年度東方学院で「アビダルマ入門」という講座をもつことになりました。まだ道の途上にはありますが、研究会員の皆様をアビダルマの迷宮に巻き込み、意見や質問も頂きながら、時に道草もして、充実した時間を過ごしています。



きむら ゆかり

2003年東方学院に入会。16年3月に文学博士。同4月より立正大学法華経文化研究所研究員、非常勤講師。学位論文は『「俱舎論」を中心とした有身見の研究—刹那的な諸行を常住な一個体(pinda)と把握する想と聖者の諦—』

東方学院
研究会員の声

竹田努さん

(東京本校)

応分の所得

多年親しんでいる坐禅を別の視点から見つめ直してみたいと思
い、唯識を中心に受講している。

講座を伺っていると中論で語られて
いることは、市井の一凡夫には言葉や表
現に感うことがなければ極く当たり前なこ
を当たり前に語っているように日々の経験の
中で思われ、特段の違和感なく受け止められ
ている。また成唯識論を読んでいると、まる
で数学の定理の証明を読んでいるような感覚
を覚えることがあり、それぞれ楽しく学ばせ
ていただいている。

「応分の所得」という言葉を初めて専門道場
の簡単な者から聞いた時、自分の佛法に対す
る姿勢を咎めまた揶揄されているように感じ
たが、今はこの言葉を有り難い大切なものと
して捉えている。



朝に中論を聞き夕べに唯識を学び、それを
生活の中に味わい、明日
からの営みが変わるよう
な学び方をしたい。一言
の聞法が、佛書の一行が
境界を深めてくれる。日
日応分の所得を積むこと
により「勞而無功」とい
う境界を味わうことがで
きる。

伊佐地康代さん

(中部校)

東方学院と私

ご縁あり東方学院に学びの場を得て3年目に
なります。中部校では2017年度に遠藤康先
生の「インドの歴史と文化」を、2017年度
から現在まで服部育郎先生の「原始仏教の思想」
を受講しています。「インドの歴史と文化」は
受講者が少なく、「先生のボランティア？」と
思いつつ楽しくインド仏教の興隆と衰退を学び
ました。今年度「原始仏教の思想」の参考書は
中村元先生の『へ生命』の倫理』（構造倫理講
座Ⅲ）で、装丁



が美しく親しみ
易いのですが内
容は私には難し
く、企画編集に
携わられた服部
先生の講義を少
しでも理解に繋げたいと思います。関西校では
2017年から平木光二先生の「パリー語」を
受講しています。受講者の能力に配慮した文法
指導と仏教思想に基づいた内容説明に安心感を
覚えます。

先生方は受講者のどのような質問にも丁寧に
答えて下さいます。それは得難い環境です。私
はこの文章作成の為に『受講の手引き』を読み
返し、先生方の真摯な姿勢は、「中村先生の信念」
を受け継がれているからと気付きました。学び
たい私は感謝で一杯です。

阿部敦子さん

(東京本校)



以前、鎌倉の鶴岡八
幡宮の境内で、夏期講
座が開かれていまし
た。初めの頃は二日間
の日程で開催されてい
たように記憶していま
す。ご近所ということ
で、受付のお手伝いを
させて頂きました。初
日の開講前に、八幡宮
に中村元先生をはじめたくさんの先生方がお詣
りし、御神酒をいただきました。質疑応答の時
間に、チャイとクッキーが皆様に供されていた
のが、東方学院らしかったように思い出されま
す。

どの夏でしたか、西村公朝先生の講義があり
ました。お話の内容は忘れてしまいましたが、
お声とお姿は今もはつきりと記憶に残り、いま
ですと勇氣付けてくださっています。
阿部を見送った後、仏様の教えを知りたくて、
東方学院の講義を受講しています。残された本
を守って行くことと、学び続けることが供養に
なると思っています。解らないことが増え続け
ていますが、経典を序品から読み進む講義に出
会えたことは、大きな喜びとなっています。今
は、渡邊寶陽先生と宮元啓一先生の講義に出席
しています。

研究員の声

鈴木一馨 専任研究員

東アジア理解のための「陰陽」研究



2015年中国山東省泰安市での国際会議にて

この原稿を書いているのは、日本中が猛暑

に包まれている八月上旬です。ところがその最中に暦の上では秋になってしまい、暑さが本格化しているのに「残暑」と不思議な表現がされます。

なぜ、暑いのに「秋」になったと考えるのかといえますと、じつは暑さではなく、「一年で太陽がもつとも高く位置する(＝夏至)」のが夏の、「一年で太陽がもつとも低く位置する(＝冬至)までの、夏以降のちょうど中間(＝秋分)」が秋の、それぞれ基準(中心)だと考え、夏至と秋分のちょうど中間を夏と秋の境とするからなのです。これは東アジアに共有される季節の理解でもあります。

この理解の基礎になっているの

が、「陰陽」や「五行」という、中国で成立した宇宙の原理です。この原理の中で、太陽は宇宙の性質とされる「陽」の精を意味します。

私は、この「陰陽」「五行」、その根本とされた「気」、主宰の原理「天」といった東アジア共有の原理(「陰陽」と総称されます)が、どのように社会や生活文化あるいは思考に関係し、影響しているのかを研究しています。今なおさまざまな場面で「陰陽(総称)」の理念が見え隠れする、そのあり方を明らかにすることは東アジア理解のために欠かせないと考えます。

この原稿がお目にかかる頃、「秋の気が深まりつつある」などと言われる時季ですが、ここにも「気」の理念が見られます。「陰陽(総称)」の私たちへの密着度は、思う以上に高いと言えるでしょう。



すずき いっけい 1966年生まれ。駒澤大学大学院博士課程満期退学。文学修士。1995年より本研究専任研究員。現在、東方学院講師のほか駒澤大学・亜細亜大学など非常勤講師、著書に『陰陽道』(講談社、2002)など。

柴崎麻穂 専任研究員

インド説話研究に至る道



幼い頃、日本昔話やイソップ、千夜一夜、『聊齋志異』などの物語を毎晩読ん

でもらった経験から、子ども時代、特にファンタジックな世界観を持つ物語に魅せられ、妖精や動物、魔法使いの登場する、世界の様々な物語集を数多く読んできた。大学生になり、日本の昔話や説話の中に、遙かインドにまで起源を遡れるものがあることを知り、是非とも起源と言われる物語を原語で読み、物語変遷の経緯について詳しく知りたいと思ったのが、インドの説話研究をはじめのきっかけとなった。これまでは主に、異なる説話集に登場する同物語の異伝本比較を行ってきたが、作品をより身近なものとして解釈するため、著者と作品の関係、作品執筆の目的やその背景に興味を持つよ



しばさき まほ 横浜生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。同研究科助手を経て、財団法人東方研究会専任研究員(現・公益財団法人中村元東方研究所)。古代インド説話研究に従事。岡山大学、岡山商科大学等非常勤講師。

うになった。インド古代説話集として名高い、11世紀のカシミールの詩人ソーマーデーヴァ作『カタール・サリット・サーガラ』(物語の川「が流れ込む」の海)は、現存しない、グナーディアヤ作『プリハット・カタール』(3、4世紀?)をオリジナルとし、カシミールで再構成された作品の一つである。主人公の王子が数多くの恋愛と冒険を経て、不思議な能力を備えた半神たちの帝王となる物語で、メイנסトーリーの中に三五〇に及ぶ多彩な挿話が組み込まれた約二万詩節におよぶ大作である。目下、本作品で頻繁に用いられるいくつかのキーワードの分析を行い、当時の歴史的、社会状況とを照らし合わせて、ソーマーヴァが作品執筆にあたったその背景を探るべく研究を進めている。



平成31年2月18日(月)開催

新春研究発表会

於 ホテル東京ガーデンパレス 高千穂の間

恒例の新春研究発表会が、ホ

テル東京
ガーデンパ
レス・高
千穂の間
で、令和元
年2月18日
(月)に開
催されまし
た。今回の



講師は、若原雄昭氏(龍谷大学教



若原雄昭先生

授)と高橋孝信氏(東京大学名誉教授)です。若原雄昭氏



高橋孝信先生

は、「ベンガルの大地に生きる仏教徒たち」スリムと

「インド説話の世界―カタール・サリット・サーガラを通して―」と題し講演を行いました。

令和元年5月24日(金)開催

仏教文化講演会同講会

於 法恩寺(香川県高松市)

香川県高松市の法恩寺と当法人

共催の仏教文化講演会が、法恩寺を会場として毎年開催されていますが、今年も令和元年5月24日(金)の開催となりました。当研究所からは柴崎麻穂専任研究員が

「インド説話の世界―カタール・サリット・サーガラを通して―」と題し講演を行いました。



また、当日は、日本の童画家シリーズ⑩「知られざる明治・大正の挿絵画家・齋藤英朋くろ・艶・粹・美の世界」と題し、弥生美術館学芸員、松本品子先生による講演が併せて行われました。

令和元年7月20日(土)開催

研究員総会

於 ホテル東京ガーデンパレス

令和元年度研究員総会が、7月20日(土)、ホテル東京ガーデンパレスで開催され、19名の研究員が出席しました。前田専学総括研究員の開会の辞に始まり、執行部より研究員に対する通達・要請事項の伝達がなされたほか、研究部会の在り方に関する議論が熱心に行われました。また、後半では袋井由布子専任研究員による研

究発表「インド深南部における仏教美術」(司会：田中公明研究員)および、吉村均研究員による研究発表「近代の仏教理解と伝統的理解―空海思想の現代性」(司会：林慶仁研究員)が行われ、活発な質疑と議論が行われました。

令和元年7月27日(土)開催

神儒仏合同講演会

於 神田神社

神田神社・湯島聖堂・中村元東方研究所の三団体共催、神儒仏合同講演会の第11回が、7月28日(土)午後1時〜4時30分、神田神社事務所ホールにて行われました。今回は「自然と共に生きる」を共通



開会の辞 清水宮司

田神社事務所



前田理事長



うすれば
ためにはど

らの中島彰良講師(株式会社リーテム代表取締役CEO)による「SDGSからひもとく自然と神道」、そして仏教から岡田真水講師(兵庫県立大学名誉教授)による「法華経の生命観とものいのち論」と題した講演が行われました。「自然」と「人間」を切り離さず一体的にとらえてきた東アジアの伝統思想に学び、これからの時代を人と自然が共に生きる



中島彰良先生



宇野茂彦先生

テーマとし、儒学から宇野茂彦講師(中央大学名誉教授)



岡田真水先生

大盛会となりました。

いいのか、という重要なテーマに導かれ、出席者113名の

【今後の行事のご案内】

★東方学院・酬仏恩講演合同講演会
日時：令和元年12月1日(日)
会場：薬師寺 まほろば会館(奈良県奈良市)
講師：未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ申し上げます。

★新春研究発表会
日時：令和2年2月17日(月)
会場：東京ガーデンパレス
講師：未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ申し上げます。

★東方学院2020年度申込開始
2020年度の「手引き」完成は2019年12月20日ごろ、受講申し込み受け付けは、2020年一月初からの予定です。詳細は決まり次第、ホームページ等でご案内申し上げます。

新 刊 案 内



高橋尚夫著 『維摩経ノートV』

古今東西の仏教者にくり返し愛読されてきた『維摩経』の完全版！ 仏教の基本思想はもちろん、経典を読む楽しさも味わえる一書。1999年にポタラ宮で自らが発見した梵文写本の校訂テキストをもとに、西藏訳と漢訳3本に羅什の注釈を付して対照。さらにそれぞれの和訳と書き下し文に詳細な訳註を大幅に追加し、全てを一望できるよう配置したマルチリンガル・テキスト。各品における主要項目を梵・藏・漢で対照させた「付表」を収録。

新書：322頁
出版社：ノンブル社 言語：日本語
定価：本体 5,000円 (税別)

ISBN-10：4866440155
ISBN-13：978-4866440156
発売日：令和元年5月6日

事務局通信

【東方学院専用ホームページのお知らせ】

平成 30 年 1 月 1 日より、スマートフォンにも対応している東方学院専用ホームページ <http://tohogakuin.org> を公開しております。講師・講義の紹介や学院からのお知らせなどをご確認頂けます。ぜひご活用ください。

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ち申し上げております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受け、平成 24 年 7 月 2 日をもって、従来の財団法人から「公益財団法人」へと移行いたしました。公益財団法人へ移行したことに伴い、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税制上の優遇措置が受けられます。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内
- ▶ 公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<http://www.toho-gakuin.org>

(スマートフォン対応)

東方学院

検索

- ▶ 東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和元年度 前期号（通号第 34 号）

令和元年 10 月 10 日発行

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082